HP 掲載用

研修報告書　№36

このたび、令和 8 年 1 月 26 日から令和 8 年 2 月 22 日の期間、高知県内の医療機関において地域医療研修を行いましたので、報告いたします。

今回の研修を通して、高知県の地域医療は地理的条件と人口構成の影響を強く受けていることを実感しました。山間部や海岸沿いに集落が点在しており、医療機関までの距離が長く、移動に時間を要する地域も多く存在しています。そのため、都市部のように患者さんが容易に受診できる環境とは異なり、限られた医療資源の中で効率的かつ継続的に医療を提供する体制が求められていました。また、交通手段が限られる高齢者にとっては通院そのものが大きな負担となっており、医療機関側が地域の実情を踏まえて柔軟に対応する必要性を感じました。

さらに、高知県は全国平均と比較して高齢化率が高く（図 1)、慢性疾患や多疾患併存の患者さんが多いことが特徴的でした。実際の診療においては、心不全や脳血管疾患後遺症、慢性呼吸器疾患など複数の疾患を抱えながら生活している患者さんが多く、単一の疾患に対する治療だけでは十分ではない場面を多く経験しました。そのため、患者さんの生活機能や社会的背景を踏まえた包括的な医療の重要性を強く実感しました。また、疾患の治療のみならず、再発予防や生活の質の維持・向上を目的とした長期的な関わりが求められる点も、地域医療の大きな特徴であると感じました。

病院の役割としては、外来診療や入院管理に加え、慢性期医療や在宅復帰支援まで幅広く担っており、地域完結型医療の中核として機能していました。特に退院後の生活を見据えた診療が重視されており、患者さん一人ひとりの生活環境や家族背景を踏まえた医療が実践されていました。また、医療と介護の連携が非常に密であり、地域包括ケアシステムの実際を現場で体感することができました。

研修内容としては、外来診療、病棟業務、訪問診療、各種検査の見学など多岐にわたる業務に関与しました。その内訳は図 2 の通りであり、外来および病棟業務に加え、訪問診療や多職種連携にも関与することで、地域医療の実際を多角的に学ぶことができました。外来では新患対応だけでなく、継続診療にも関わることで、長期的な視点で患者さんを診る重要性を理解しました。また、病棟では急性期から慢性期への移行を意識した診療が行われており、退院後の生活を見据えた治療方針の決定が重要であると学びました。

訪問診療では、患者さんの生活環境や家族の支援体制を直接確認することができ、医療が生活と密接に関係していることを実感しました。さらに、看護師、リハビリスタッフ、ケアマネジャーなど多職種との連携を通じて、医師単独では完結しない医療の実際を学びました。特に退院支援や在宅移行の場面では、医療的判断だけでなく社会的視点が不可欠であることを理解しました。

今回の研修は短期間ではありましたが、地域医療における医師の役割について深く考える貴重な機会となりました。高度医療の知識や技術のみならず、地域の特性を理解し、限られた資源の中で最適な医療を提供する能力が求められることを学びました。また、患者さんの生活背景や価値観を尊重しながら医療を提供する姿勢の重要性も改めて認識しました。

本研修で得た経験を今後の診療に活かし、地域社会に貢献できる医師となるよう努めてまいります。最後に、本研修の機会を提供してくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

図１　高知県と全国の高齢化の比率

地域	高齢化率（65 歳以上人口割合）
高知県	35. 0%
全国平均	29. 1%
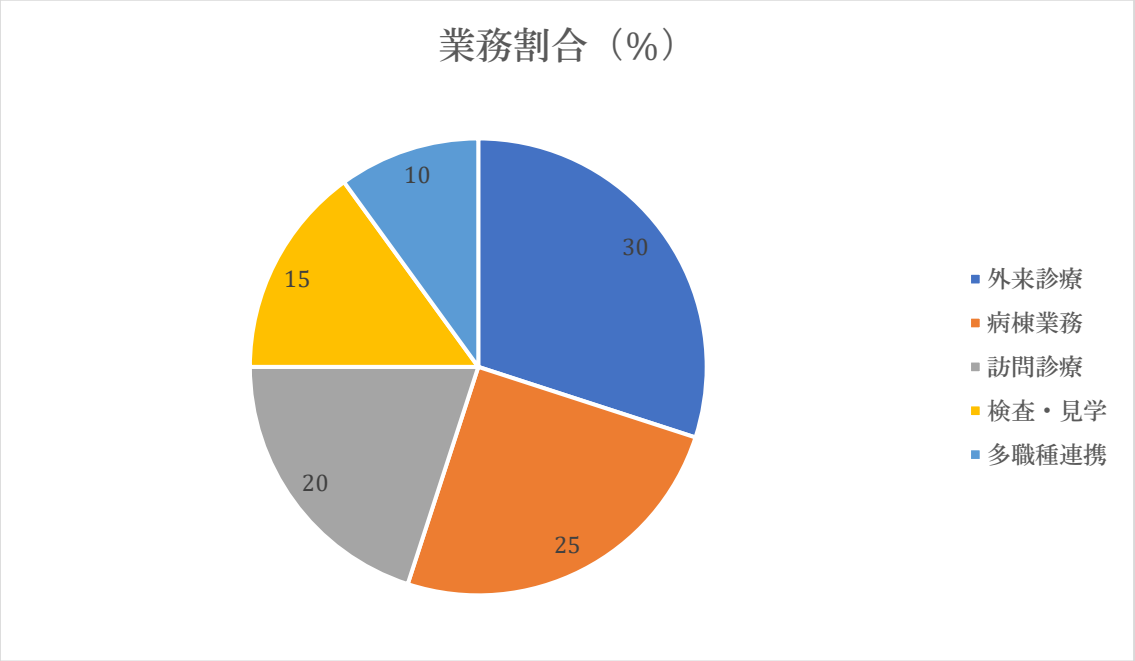
図２　研修内容の内訳